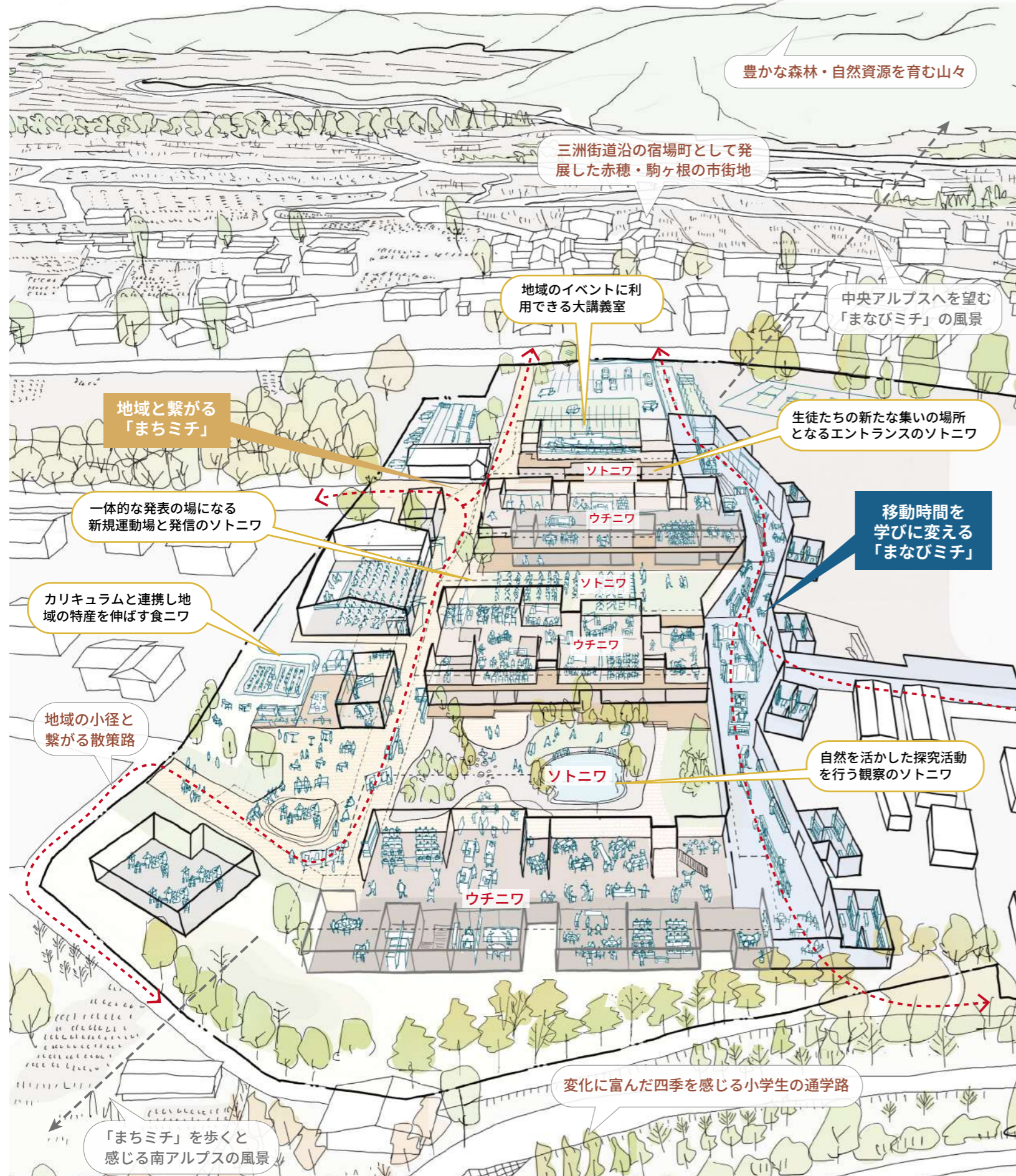


“まち”と“まなび”のふたつのミチが織りなす学びの循環

中央アルプスと南アルプスに囲まれた自然豊かな街に建つ赤穂総合学科新校は、まちの風土や文化、産業の学びを通じて、これからの多様かつ共生の時代を生き抜く総合的な人間形成の場になることが期待されます。そこで、私たちは歴史ある三州街道を継承し、“まち”と“まなび”のふたつのミチを通すことで、地域社会とのローカルなつながりと時間や場所を超えたグローバルな学びの両方を併せ持つ学校をつくります。その両者が関係し合い、学びの循環を生むことで、赤穂独自の新しい総合高校を目指します。



地域の小径を拡張する2本のミチ

赤穂南小学校の通学路を構成する小径を拡張し、赤穂新校に“まちミチ”と“まなびミチ”を引き込むことで、まちミチでは小中学生を含む住民と生徒の活動の共有、まなびミチでは学習と生活や部活動など、有機的な繋がりをつくります。



既存建物に考慮した配置案の検討

既存建物に考慮をしながら、可能性としての3つの配置パターンを検討しました。周辺の街並みへの連続性や、教室棟への方位を踏まえた採光通風の状況から、パターンAの分棟接続案が最良と考えています。

案	A案 平行配置	B案 中央集中	C案 口の字
快適性	○各棟へ通風・採光が可能	○各棟へ通風・採光が可能	×新築部の西日が課題
動線	×各棟が離れている	×各棟が離れている	○室がまとまっている
屋外空間	○教室と広場が近接する	×教室と広場が離れている	○中庭を活用できる
木造	○容易	△少し困難	△少し困難
階数	○2階建て	×3階建て(階高低い)	○2階建て
建替え	○棟ごとの建替えが可能	×規模が大きいため困難	×各棟が近いため困難
まち並み	○周辺に配慮したスケール	×周辺に対して大規模	×周辺に対して大規模

周辺環境と敷地条件に配慮した配置計画

- 教室や大講義室を4つのボリュームに分節してその両端を東西のミチで繋ぎ、さらに周辺へと関係を拡張するボリュームをミチの外側に配置します。
- 高低差を多く含むこの敷地では、周辺道路と接地する箇所に地域との接点を設けるとともに、敷地内の高低差を吸収したミチの設計を行います。
- 歩車の動線を明確にゾーニングします。
- まちミチを地域開放の拠点としながら、行事によってはソトニワでもイベントを共有するような、まちと共にある高校を目指します。

